

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 Aユニット)

事業所番号	0272101007		
法人名	有限会社 やよい		
事業所名	グループホーム やよい荘		
所在地	青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字舞戸町字蒲生85-1		
自己評価作成日	平成22年10月1日	評価結果決定日	平成23年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・ホームの近くに協力病院があり緊急時の対応に於いても即応できるため本人家族からも安心との声がある。
- ・市内のイベント等にも積極的に参加し地域とのかかわりを大切にしている。
- ・ホーム内で共用型のデイサービスが行われており、毎日利用者とのふれあいで刺激になっている。
- ・誕生日には本人の希望食が献立の中に組み込まれホームからのプレゼントや家族からのメッセージカードがあり家族との絆も深まっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.aokaigojyouho.jp/kaigosjp/infomationPublic.do?JCD=0272101007&SCD=720>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階		
訪問調査日	平成22年11月16日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者及び職員は、地域密着型の理念を反映させたホームの理念をよく理解し、職員会議等で確認し合うなど、共有を図る取り組みの実践をしている。
地域の行事に積極的に参加したり、ふれあい祭を開催して地域との交流を図っているほか、老人クラブなどの訪問、ハーモニカ演奏の訪問を受け入れたり、何時でも見学できるようにしている。
毎月職員会議を開催し、ホームの運営やケアの方法等について協議する場を設けるほか、半年に1回、職員と管理者との個人面談を行い、意見を出せる機会を作っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員自らが理念を考え、提出していただき理解しやすい言葉で、やさしい笑顔と感謝の気持ちを持ち、安心してここでの生活を送っていただけるよう職員はたくさん愛とまごころを持って接していくようにしている。	管理者及び職員は、地域密着型サービスの役割を反映させたホームの理念をよく理解し、職員会議等で確認し合う等、共有を図る取り組みを実践し、日々のサービス提供に反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事やイベントにも積極的に参加する様にし、地域の防災避難訓練への協力、広報誌も毎月発行している。	町内会に入会しており、地域の行事にも積極的に参加している。ホーム主催のふれあい祭を開催して地域との交流を図っているほか、老人クラブやハーモニカ演奏の訪問の受け入れや、いつでも見学できるような体制がとられ、地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政や地域の方々の見学を通じてグループホームを理解をしていただき協力医院にも毎月広報誌を置いて頂き理解をしてもらうようにしている。プライバシーに関しては周知徹底を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに行われる会議では 毎月のホーム内での活動の報告や意見を述べて頂き内容によっては職員内での会議に出して話し合う様にしている。	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、ホームの事業計画や行事予定等の運営について、積極的に意見をいただいている。出席率が高く、自己評価や外部評価の内容についても報告し、意見交換している。出された意見は日常のケアに反映させるよう職員会議で検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	自己評価や外部評価の結果を報告するほか、パンフレットの配布もしている。運営面等で疑問や相談があった場合は電話または直接出向いて相談し、助言を得る様にしている。	運営推進会議には、毎回出席してもらっており、自己評価、外部評価の結果を報告しているほか、パンフレットや広報誌も配布している。また、運営面において疑問な点があれば、随時相談、助言をいただいている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>職員は会議や研修を受け、職員会議等で再度勉強会を設けている。医師の指示や身体的に危険性の及ぶ行為に関しては家族の了解を得て、記録を残して対応している。</p>	<p>職員は、研修や職員会議において身体拘束の内容や弊害について理解しており、出来る限り身体拘束を行わない取り組みを目指している。現在医療面において身体拘束を必要とする利用者があり、その理由や方法、期間を定めた記録をしているが、定期的に見直しの検討を行っており、本人家族からの同意を取っている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者 職員は積極的に研修に参加し虐待防止に関する取り組みについて理解を深めており、虐待のないケアに取り組んでいる。虐待についてのマニュアルの整備も行い周知徹底を図っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者が外部研修に参加して職員に研修の報告を行う事で全職員の権利擁護に関する理解を深めている。以前、利用者の中に日常生活自立支援事業を活用していた方がおり、十分な理解をしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際は、ホームの理念や運営方針について書面に基づき説明を行い、納得した上で契約を行っている。契約改訂事や退居時についても十分説明し、同意を得ている。</p>		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に内部及び外部の苦情窓口を掲示するほか、家族が意見を言いやすいように投書箱を設置している。意見や要望、苦情などが有った場合は職員会議で話し合い、出された意見を今後のケアにつなげている。</p>	<p>お便りで利用者の暮らしぶりを報告し、意見や要望があった場合は連絡するよう促している。また、玄関にご意見箱を設置し、いつでも意見を出せるようにしている。また、第三者委員2名を委嘱し、第三者委員を通じて意見を出せる体制がとられている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議の中で報告をするようにし、意見交換をしている。職員の見解も取り入れた事業計画を作成している。	毎月、職員会議を開催し、ホームの運営やケアの方法等について協議する場を設けるほか、半年に1回、職員と管理者との個人面談を行い、意見を出せる機会を作っている。出された意見は運営に反映されるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回職員の個人面談を行い 仕事上においてのストレス等がないか意見を出して頂くようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修には積極的に参加するようにし、資格取得に向けてのサポートも行っている。ホーム内での研修も積極的に行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	西北五及び県のグループホーム協会に加入し、研修に参加するほか3ヶ月に1度の町内のグループホームの会議に参加し、情報交換や運営に関する相談助言を受けている。また、他施設との交流会も行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談を行い、本人家族の意向を聞きアセスメントを行う。本人と会う事で心身の状態、思いを受け止め、家族との話し合いを含め信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面談を行い、本人家族の意向を聞きアセスメントを行う。本人と会う事で心身の状態、思いを受け止め、家族との話し合いを含め信頼関係を築くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は、本人家族のニーズに出来る限り対応できるようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々の能力に応じて、農作業や調理の下ごしらえ、漬けものの漬け方等を職員が教わり、共に支え合う関係を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族や地域の方からの情報を密にし本人の思いを大切に日々の生活の支援に当たる様になっている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に来てくつろげる場所を提供したり、美容院に行ったり、美容師に来ていただくなどしている。	入居時のアセスメントや家族からの情報により馴染みの場所や人を把握しており、希望に応じて馴染みの場所へ外出したり、家族や知人に電話を取り継ぐ等の対応をし、これまでの関係が継続できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係がうまくいくよう職員が目配りをして、トラブルのないよう十分な配慮をしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談に乗れるように家族に対しても十分な声掛けを行っている。			

自己 外部	項目	自己評価		外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でコミュニケーションを図る事で利用者の意向や希望の把握に努めている。意向や希望が困難な場合は家族に相談したり、職員で十分話し合うようにしている。	利用者本人から希望を伝えられる人が少なくなっているが、これまでの生活の関わり合いから言動や声がけを通じて把握するように努めている。また、必要に応じて家族からの情報を得ている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方に聞きとりをし、本人の要望を十分取り入れるようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中での行動や体調の変化を観察し、状態把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を聞きアセスメントを行い、日々の生活の中から利用者の希望や思いをくみ取り、医療機関や関係機関の意見を取り入れ、個別具体的な計画作成をしている。	利用者本位の個別の介護計画を、利用者や家族、職員の意見を反映し作成している。3ヶ月毎にモニタリングを行い、見直しを図っている。また、利用者の状態の変化により随時見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、日々の様子、身体状況等 本人に関するすべての情報が見られるようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の業者や消防署、企業グループの協力による防災避難訓練など協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの受診状況を把握しており、利用者や家族の希望する医療機関の受診も支援している。受診結果などはその都度家族に報告をしている。	入所前からの医療機関の受診状況を把握しており、希望する医療機関の受診の支援をしている。受診結果は家族に連絡するとともに、連絡ノート等を使用して共有化を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の中に看護師がいる為いつでも相談出来る様になっており、日々の生活の中に於いても利用者の健康管理には十分配慮して指示をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院が施設の向かいにあり、いつでも相談できる体制になっている。入退院においても十分な話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との話し合いで、施設でできる対応の限度を理解していただき、対応している。	できるだけ、ホームで生活が継続できるよう努力しているが、重度化や終末期への対応はしていない。重度化した場合の対応等について、入所申込み時点からホームでできること、できないことを家族に説明し、理解を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成しており定期的に勉強会を行う様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回企業グループ・消防署の協力のもと避難訓練を行っている。食料や飲料水も定期的に点検し、常備している。	消防や警察はもちろん地域の方々にも協力をお願いし、年2回防災訓練を実施している。夜間を想定した職員が一人でも対応できるように避難誘導などの訓練マニュアルを作成し、訓練も行っている。消火器等の設備点検も定期的に行われ、万一に備えて飲料水や食糧、防災用具等が備蓄されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の言動や行動を否定、拒否しないように努め、個人情報などの記録は外部の目の届かない場所に保管している。また申し送りノートを利用して利用者の状態を把握している。	利用者の言動を否定することなく、利用者本意のケアに努めている。毎日のミーティングや月に1回の会議で利用者の声かけや対応について話し合いの場を設け、プライバシーの配慮に努め、守秘義務や個人情報の保護についても職員が理解している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションや行事・食事面に於いても利用者の希望を取り入れる様に、日々のコミュニケーションを十分図るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り利用者の要望にこたえる事が出来る様に努めている。利用者が出来る事であれば一緒に行い、無理強いはしないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員の中に美容師がいるので個々にあった髪型をお願いしている。また、外部から美容師にホームに来て頂いている。また、近隣のショッピングセンターに買物に出かけ衣類の購入もしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に食事を摂り、楽しく会話をしながらリラックスした音楽を流して食事を摂っている。また、食事の準備や後片付けも出来る人には積極的に進めている。	アセスメントで利用者の好みを把握し、なるべく好みの食事を提供するようにしている。毎食、職員が利用者と一緒に食卓に着き、食べこぼしをサポートしながら食事を摂っている。また、食事の際はテレビを消して音楽を流し、リラックスした雰囲気ですべて食事を摂っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	姉妹施設に栄養士がおり、メニューを見て頂き、1日1500カロリーを目安にしている。水分補給も個々に摂取量の把握が出来るように個別に準備している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には歯磨きを行っており定期的に消毒も行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、個々の排泄パターンの把握をしている。プライバシーを損なわない様な声掛けを行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握しており、記録をとっている。排泄を促す場合は、羞恥心に配慮し、他の利用者には気付かれないように誘導している。オムツを使用している利用者の使用の継続についても随時検討を行い、自立に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因を探るとともに、食材や献立も工夫している。場合によっては主治医の指示を仰ぐようにしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の入浴習慣や好みの温度などに配慮し行っている。入浴を拒否する利用者に関しては毎日の声掛けと気の合う利用者と一緒に入浴をしたりしている。	利用者の入浴の好みや入浴方法を把握し、毎週2回は入浴できるようにしている。入浴の際は常時職員が、つかりすぎないよう見守り、洗身の支援を行っている。入浴を拒否する場合には、時間をずらしたり声かけの工夫により対応している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の適度な活動により生活リズムを整え夜間の安眠に対応しているが、落ち着きのない利用者に関しては、居室ではなく、職員のいる場所で眠って頂く事もある。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された内服の内容を個人ケースに綴り、職員が内容を把握できるようにしている。ほとんどの利用者が自分では管理出来ないため、毎食後に職員が手渡し、飲むのを確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の趣味や特技などを把握し、その人に合った役割や楽しみを活かす働き掛けを行うようにしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物やドライブ・地元のイベント等に出かけたりしている。	出来るだけ外出の機会を作るようにしているが、利用者の身体機能の低下により、遠方には行くことが難しくなっている。ホームの車を利用し、近場の菜の花畑や海岸、買い物等、利用者の希望や体調にも配慮して外出している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週2回ヤクルトの訪問販売があり、楽しみのひとつでもある様で自分で見て購入している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望があればいつでも家族に電話ができる様にしており、荷物の礼状などは職員が代筆をして送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は畳やソファ、食卓が自由にくつろげる空間となっており、廊下も談話スペースが確保されており、トイレ側のソファは利用者のチョットしたたまり場となっている。観葉植物や花を飾ったり壁画も季節感のあるものを飾っている。	共有空間は床暖房となっており、冬期間も暖かく過ごせる。乾燥を防ぐため、加湿器も設置されており、温度、湿度の調整を行っている。ホールの畳やソファでゆっくりくつろげるほか、廊下にもソファや椅子が置かれ、自由に座れるようになっている。また、観葉植物や壁画等の装飾物が飾られ、季節を感じられるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やトイレ側にイスが置かれており、気の合った利用者同士会話を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具や仏壇、遺影などが持ち込まれている。利用者が住みやすい様にベットの配置などにも職員と利用者で考えながら配置している。	なじみの物を持ってきてもらうよう家族に積極的に働きかけを行い、居室には利用者が持ち込んだ馴染みのものが持ち込まれている。家具の配置などについては、利用者の意見を聞きながら、職員と一緒に部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室前にはのれんを飾り色や柄で自分の部屋が分かる様にしている。廊下・トイレ・浴室には手すりを設置しており個々の身体状況に合わせて車イスなどを使用している。		